

泌尿器科

腫瘍性疾患を主体に、全ての臓器、疾患に対する治療を積極的に行っている。低侵襲治療が手術における大きなテーマであり、平成 25 年より行っているロボット支援前立腺摘除術は 200 例以上の執刀件数となった。修復しうる直腸損傷の 1 例以外、重大な合併症は発生しておらず、高リスクの前立腺癌症例に対しては拡大領域でのリンパ節郭清を併施、正確な病期診断と、微小転移病変の摘出による予後改善に努めている。逆に低～中リスク、若年の症例については、男性機能温存の術式に積極的に取り組んでいる。平成 28 年からは小径腎癌に対するロボット支援腎部分切除術も開始しており、現在までに約 100 例以上の手術を重大なトラブルなく実施した。腎部分切除術にロボット支援手技を取り入れることで、より精密かつスピーディな腎実質切除が行えるようになり、腎機能温存、制癌性、合併症の点で多くのメリットを享受できている。令和 4 年からは腎盂尿管移行部狭窄症に対するロボット支援腎盂形成術、腎細胞癌、腎盂尿管癌に対するロボット支援腎摘除術、腎尿管全摘除術も実施可能となり、広範囲の泌尿器科疾患に対し、ロボット支援手術を適応できる体制を整えている。

腎、副腎における、その他の良性悪性疾患に対しても積極的に体腔鏡（腹腔鏡、後腹膜鏡）手術を採用しており、現在腎摘除術、副腎摘除術、腎尿管全摘除術の 9 割以上が体腔鏡アプローチとなった。大径の腎悪性腫瘍、広範なリンパ節郭清を要する腎盂尿管癌に対しては安全性、制癌性を重視し、開腹手術ないしロボット支援手術を実施している。

悪性腫瘍の長期手術成績については、平成 2 年以降の腎癌・腎盂尿管癌・膀胱癌・前立腺癌・精巣癌に対する術後遠隔成績（5 年生存率）を集計し、ホームページに開示している。

高齢者の排尿障害の大きな原因の一つである前立腺肥大症に対し、低侵襲な手術治療として平成 28 年よりグリーンライトレーザーを用いた経尿道的前立腺蒸散術（PVP）を開始、さらに令和 4 年からはホルミウムレーザーを使用した経尿道的前立腺核出術（HoLEP）も実施可能となった。PVP は出血が極めて少ないのが特徴であり、全身状態の不良な患者や抗凝固剤使用中の患者でも安全に手術を行うことができる。一方 HoLEP は肥大した腺腫の除去効率に優れ、より高度な前立腺肥大症症例に対しても良好な成績が得られている。

投薬治療に抵抗する難治性過活動膀胱に対する外科的治療として、平成 29 年より仙骨神経を刺激する電極の埋め込み手術（SNM）、令和 2 年度からは、より侵襲の少ないボツリヌストキシンの膀胱内注入療法を開始している。QOL への影響が強い本疾患に対し、効果的な治療をより多くの患者に提供できるようになることが期待される。

a. 体制

スタッフ

令和 5 年 3 月に小池、西崎医員が異動退職となり、同年 4 月より医員として牧田医師、後期研修医として山内医師が着任した。現在主任部長 1 名、部長 1 名、医員 2 名、後期研修医 1 名の計 5 名の体制で診療に従事している。

氏名	役職
岡田 卓也	（主任部長）
宗田 武	（部長）
牧田 哲幸	（医員）
大塚 修平	（医員）
山内 智瑛	（後期研修医）

b. 診療実績

総外来患者数	13,732 人（令和 4 年度 14,700 人）
総新規入院患者数	595 人（令和 4 年度 599 人）
総手術件数	539 件（令和 4 年度 560 件）

日本泌尿器科学会専門医教育施設（認定施設番号 860497）
 京都大学広域連携専門研修プログラム連携施設
 兵庫医科大学泌尿器科専門研修プログラム連携施設
 紀州伊勢泌尿器科研修プログラム連携施設

カテゴリ	手術名	件数	(うち体腔鏡下)
副腎	副腎摘除術	10	(10)
腎	腎摘除術 腎部分切除術 経皮的腎瘻増設 その他 生体腎移植術 移植腎用腎採取術	12 19 6 7	(12) (ロボット支援 19)
腎盂・尿管	腎尿管全摘術 腎盂形成術 経尿道的尿路結石除去術 経尿道的尿管ステント留置術 尿管ステント交換術 尿管鏡 その他	12 1 73 46 102 19 9	(体腔鏡 10 ロボット 2) (ロボット支援 1)
腹壁	CAPD カテーテル留置術 CAPD カテーテル抜去術 尿膜管摘出術	8 1 1	(6)
後腹膜	後腹膜腫瘍切除術	3	(1)
膀胱	経尿道的膀胱腫瘍切除術 膀胱全摘術、尿路変更 経尿道的膀胱結石除去術 内視鏡的止血術 膀胱水压拡張術 その他	88 6 11 9 5	
前立腺	ロボット支援前立腺全摘術 経尿道的前立腺レーザー手術 (PVP, HoLEP) 経尿道的前立腺手術 (TUR-P) 経会陰式前立腺生検 経直腸的前立腺生検 その他	23 27 3 8 105 3	(ロボット支援 23)
尿道	内尿道切開 女性尿失禁手術 (TVT, TOT) その他	2 2	

陰茎・陰囊	環状切除術・背面切開術 陰囊水腫根治術 その他	3 4 1	
精巣	(精索捻転症) 精巣固定術 精巣摘出術 低位結紮術	5 4 1	
その他		5	
合計		539	84 (腹腔鏡 39, ロボット支援 45)

(経直腸的前立腺生検を除く)

c. 学会・講演・著作その他の研究活動

【学会】

- 岡田 卓也 前立腺縮小薬内服中の前立腺肥大症患者における PVP 術後経過の検討 第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2023/11/09-11/11(米子コンベンションセンター)
- 宗田 武 Long-term practice patterns for men with lower urinary tract symptoms associated with benign prostatic hyperplasia 第 110 回 日本泌尿器科学会総会 2023/4/20-4/23(神戸国際会議場)
- 宗田 武 ロボット支援前立腺全摘除術前後の下部尿路症状に影響を与える因子の検討第 37 回日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会総会 2023/11/09-11/11(米子コンベンションセンター)
- 牧田 哲幸 当院におけるロボット支援腹腔鏡下腎部分切除術の治療成績検討第 73 回 日本泌尿器科学会中部総会 2023/10/12-10/14(奈良県コンベンションセンター)
- 牧田 哲幸 RAPN 後に尿漏治療目的に尿管ステント留置を行った症例の検討第 41 回 泌尿器科手術研究会 2024/1/27(ウェスティン都ホテル)
- 大塚 光 筋層非浸潤性膀胱癌術後の無再発生存期間と再発後フォローアップの検討第 75 回西日本泌尿器科学会総会 2023/11/02-05(ANA クラウンプラザホテル松山)

【研究】

- 尿路上皮癌に対する免疫チェックポイント阻害薬治療の多施設共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸、大塚 光)
- ホルモン感受性転移性前立腺癌の治療実態に関する前向き研究
(岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸、大塚 光)
- 前立腺がんに対するロボット支援根治的前立腺全摘術の多機関共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸、大塚 光)
- 切除不能尿路上皮癌の治療に関する他機関共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸、大塚 光)
- エンフォルトマブベドチンによる皮膚障害の発症様式に関する多機関共同観察研究
(岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸、大塚 光)
- ロボット支援前立腺全摘術後の下部尿路症状の検討
(宗田 武、岡田卓也、牧田 哲幸、大塚 光)
- 前立腺肥大症に対する治療状況の検討
(宗田 武、岡田卓也、牧田 哲幸、大塚 光)

- 8 筋層非浸潤性膀胱癌の再発/進展に関する検討
(大塚 光、岡田卓也、宗田 武、牧田 哲幸)

【論文】

(原著論文)

- 1 Soda T, Otsuka H, … , Okada T , … Baseline factors and surgical procedures affecting changes in lower urinary tract symptoms after robot-assisted radical prostatectomy: the impact of nerve-sparing International Urology and Nephrology 第56巻 989-997 2024 (査読有り)

【出版】

- 1 宗田 武 夜間頻尿 泌尿器科の疾患・治療・ケア p48-53 メディカ出版
2021年発行